

# 令和元年度 JICA 東京主催 教師海外研修 ザンビアコース研修報告書

地歴公民科 竹村 ゆかり

## 1. ザンビアとは

### 基本情報

- ① 人口 1,709万人（2017年）
- ② 面積 752,600 km<sup>2</sup>（日本の約2倍）
- ③ 言語 英語（公用語）その他トンガ語、ニャンジャ語、ベンバ語など各部族の言語
- ④ 宗教 8割近くはキリスト教 その他イスラム教、ヒンドゥー教、伝統宗教
- ⑤ 気候 1年を通し、5～35℃まで変化。雨季と乾季がある。  
標高が高く（ルサカは約1,300m）日較差が大きい。

### 1964年東京オリンピック閉会式の日独立

旧イギリス植民地北ローデシア。1964年10月24日東京オリンピック閉会式に独立。閉会式には「ザンビア共和国」として参加した。8つの国に囲まれた内陸国であるが、紛争を経験したことがなく、アフリカのなかでも特に治安はよい国。

銅の産出国であり、銅の輸出を目的に、1970年代に中国、タンザニア、ザンビアの3か国でタンザン鉄道が建設された。このタンザン鉄道、物資の輸送が中心ではあるが、10時間の遅れもざらであるという。



### 急速な経済成長

2000年代に入り、中国の急成長と銅の需要増に伴って急速に経済発展を遂げた。一人当たりGDPが445USD（1997年）から1,513USD（2017年）へ。旧イギリス植民地であり、植民地時代に連れて来られた人々にルーツのあるインド人がそれまでの経済の中心であったが、現在のザンビアはまさに中国と切っても切れない関係にある。在ザンビア中国人は約10万人といい、首都のルサカは中国資本による建設ラッシュ、南アフリカ系の巨大ショッピングモールが林立し、その急成長ぶりをうかがわせた。



中国の存在感



巨大なショッピングモール



首都ルサカの空港

## 2. ザンビアの食文化

### ザンビアのソウルフード「シマ」

メイズとよばれるとうもろこしを粉にして団子状にした「シマ」が主食。伝統的な食生活においては手を使って食べる。シマを手で丸めておかずと一緒に口へ運ぶ。慣れないとうまく丸められず、なかなか難しい。やせた土地が多いが、乾季であってもよく育つという理由でトマトもよく食べられる。シマは出来上がるまでに少々時間がかかる。朝食は食べずに1日1食か2食であるケースも多い。シマと「塩と油」が食生活の基本であり、伝統的食生活もバランスがよいとは言えず、近年では生活習慣病患者が増加傾向にある。



伝統的ザンビア料理



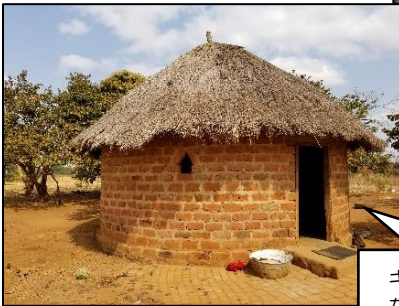
いもむしの素揚げ？

内陸国であるため基本的に川魚



約30cm 巨大な川魚の素揚げ

### ザンビアの農家さん訪問



シマ作り  
やってみるとかなり力が  
必要な重労働



キッチン・両親用・子ども用  
などに応じて建物が分かれて  
おり、裕福な農家さん



牛・鶏が家畜として  
飼われていた。鶏は  
農家さんで絞めて  
食べる。ザンビアで  
は地鶏が食べられる  
ことが多い。市場で  
は羽つきの鶏そのも  
のが売られていた。



農家の食卓  
右奥がシマ

## 農業の多様化を目指して

後述するが、ザンビアの産業は天候に大きく左右される。ザンビアの農業はシマの原料となるメイズに偏重したもので、すべては雨次第。リスクが高い農業である。そのため、JICA ではメイズに代替する穀物としてコメに焦点を当て、研究・普及のための技術支援を実施している。

## 欧米化する食文化

急速な経済発展に伴って、都市を中心に食生活も欧米化している。パン食も好まれるようになり、KFC や南アフリカ資本のファーストフード店の進出が目覚ましい。裕福になった人ほどこうしたジャンクフードを好み、国内の栄養不足人口が依然として高い一方、都市では肥満も問題となってきた。



インド系住民の存在によって本格的なカレーが食べられる。

20年前、ルサカに中華料理屋はなかった（JICA ザンビア 花井所長）中国人によって現在は中華料理店も増加。



## 3. 銅に依存するザンビア

### どう(銅)にかしたい 資源の呪い

輸出の7割が銅の輸出であり、経済成長を支えたのが銅といえる。ザンビア北部にカッパーベルトを擁し、輸出のために南アフリカへ銅を運ぶトラックを研修中何度も目にした。しかし、



南アフリカに銅を運ぶ

天然資源が豊かな国ほど、貧困の深刻化に悩まされる現象があり、ザンビアもその例である。発電の9割は水力発電によるものであり、ザンビアの電力の8割は銅に使われる。しかし、すべては雨次第。雨不足は農家だけではなく、計画停電が行われるなど経済にも大きなダメージを与える。

また、内陸国であり、多くの物資が陸路輸送によって運搬されるが、道路網が脆弱であり、物流のコスト高にもつながっている。

### どう(銅)でしょう 日本企業の貢献

ザンビアで銅の採掘に関わる日本企業の姿も。日立建機はザンビア人の雇用と教育に取り組む。学校建設の支援にも携わっているとのこと。銅の採掘用車両を扱う企業であるが、大きいものではタイヤが直径4m、高さはビルの4階相当など、とにかく巨大である。ダイナマイトで爆破し、巨大な車両ですくいあげる「露天掘り」によって銅が採掘される。清掃員であったが優秀だったので、作業員として雇用されたケースもあるといい、普通自動車すら運転したことがない人も一から指導されて一人前の車両の操縦者となる。ザンビアに出向している日本の技術職の社員の方が、ザンビア人育成のためのキーワードが「言われたことをするのはなく、自分で考えろ」とおっしゃったことが印象的だった。



巨大な車両

## 4. ザンビアと医療

### 都市と農村の医療格差

都市と農村では医療にも、病気にも差がある。首都ルサカにはがんセンターが設立され、医療レベルの進展が見られる。しかし、脳卒中や心疾患の治療を充分に行うことはできず、富裕層では南アフリカに治療を受けに行くケースも見られる。農村においても生活習慣病が増えているというが、農村での上記疾患は死に直結するため、予防が重要となる。



自宅出産が依然として高い妊産婦死亡率や乳児死亡率につながっているため、ヘルスセンターでの出産が推奨されている。出産後、たった6時間で自宅へ。

### ヘルスセンターの分娩台

### 高いHIV/エイズ感染率

HIV/エイズをはじめ、特に都市周辺部の性感染症が深刻であり、100円程度で売春する女性もいる。農村のヘルスセンターにもHIV/エイズ治療薬が常備されているが、国内で足りなくなってきており、今後増加が懸念されている。

中国からのローンで建設され、エアコン完備。しかし、電力供給が不安定な地域であるため、エアコンはほぼ稼働されない。



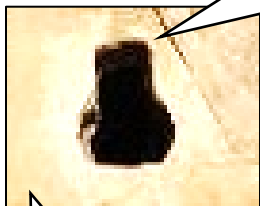
妊婦の入院施設  
(シマトゥクヘルスセンター)

### 栄養と健康

貧困によって1日1食の家庭も少なくない。メインはシマ、おかずは野菜が多く、大量の塩と油でカロリーを上げている。離乳食にも多少の加減はされるが、大量の塩と油が使われる。農村部のシマトゥクヘルスセンターで14才以下250名の栄養状態を調査したところ、急性栄養不良より慢性栄養不良が多く、割合は43%だったという。タンパク質不足が原因と考えられている。食べ物を分け与える文化があり、がりがりに痩せて腹水がたまっているような子どもは見られない。

### 水と健康

意外と臭いはひどくなかった。直径30cmほどの穴。しかし、雨季の大雨で付近に井戸があると…



穴のトイレ

都市部の公共トイレは2K(約20円)払って使用することが多い。洋式の水洗。

公式には「飲める」とされているザンビアの水道水であるが(実際に飲む人はいないというが)地方やコンパウンドと呼ばれる低所得者が集まる地域では水道が未整備であり、井戸や川の水で生活する人々も多い。

しかし、井戸の多くは浅井戸であり、雨季に汚水が混入し、コレラの大発生の要因ともなっている。コレラによって半数近くが病院に行けないうまま死亡するという統計がある。(2017~2018年 JICA)



日本の無償資金協力による  
共用の水道

## 5. ザンビアの教育

### ザンビアの教育制度

政府系（国公立？）、私立、教会系、地域で運営するコミュニティスクールの4系統あり、Grade1～12が日本の小学校～高校に相当する。Grade1～7が初等教育、8～12が中等教育のくくりとなるが、Grade7で初等教育修了認定試験がある。中等教育への進学率は6割程度。Grade1～9までが義務教育課程であるが、全員が進学できる訳ではない。Grade9で進学のための試験があり、勉強のために他校の補習授業を受けに行く生徒もいる。

1クラス約60人。机とイスがない子どももいる。教室に電気がないので暗い。筆記用具や教科書・ノートがそろっていない。1～2時間程度歩いて登下校する。兄弟姉妹が多い子どもが多い印象。



ザンビア南部モンゼの  
シムカレ初等学校

JICA ボランティアとして算数を教える  
田中悠太先生は北海道現職高校教員。

### 大きな格差



ザンビア南部モンゼの  
タウンディ中等学校

同じ地域であってもタウンの学校は環境も整っていて制服もある。それぞれテラーさんに仕立ててもらうので、生徒によって微妙に違う。

都市部、農村、地域や学校によって大きな格差がある。日本と同じような学校も。現在 JICA ボランティアで首都ルサカの学校に派遣される先生はおらず、ここにもルサカの発展ぶりを見ることができる。

教員は必ずしも大卒ではない。農村部のコミュニティスクールなどでは英語が上手という理由だけで推薦されて教員となるケースもあり、教育の質が問題となっている。特に理数科目である。訪問した地方の学校で黒板に書かれた数学の答えが間違っていた…。

国土が日本の2倍と広いので、教員が地方に行きたくない、学習指導要領が行きわたるまでに3年はかかってしまうといった問題点もある。なお、2013年に広島大学と JICA の協力による理科の学習指導要領が発行された。

### 生徒が多すぎる

合計特殊出生率 4.98 人（2016 年）というだけに、とにかく子どもの数が多く、教室に収容しきれないため、学校によっては2～3部制を採用している。7～8年の間に学校数そのものが増え、改善は見られるが、10 km以上歩かなければならない生徒、学校に机・イス・窓ガラスがないといった問題もある。何らかの事情で学校に通えなくなり、学校を再開したため、異年齢の生徒が混ざっている場合もある。初等学校に20歳近い生徒も。10代前半で妊娠して学校に通えなくなる生徒も少なからず存在する。



元気いっぱいな子どもたち

## 授業研究

ザンビアは国土が広く、教員の研修を行うためにも困難が伴う。そのため、JICA 教員専門家の方々の尽力もあってここ 15 年の間に普及しているのが授業研究。授業研究は学校ごとに行われ、授業研究後に改善した同じ授業を別のクラスで実施する。ちなみにザンビアで教材研究のことを KK と呼んでいるが、これは Kyozai Kenkyu の頭文字である。



チャールズワンガ教員  
養成校の図書館

蔵書は PC 管理。日本の一般的な図書館に似ている。鳴門や岡山で研修を受けた養成校の先生も。

## 6. ザンビア大学

### ザンビアの最高学府



ザンビア大学獣医学部

教員の給料が支払われないために授業やテストが行われないこともある。ザンビアは強烈な学歴社会であり、学位がそのまま将来に直結する。しかし、最高学府を卒業しても就職できないという問題も生じている。

ザンビア大学の日本の大学とは違う点は、成績で学部が決まってしまうこと。興味のある分野を学ぶために留学を希望する学生もいる。

### ザンビア大学と北海道大学

北海道大学獣医学部と 30 年来の関わりがあり、北海道大学の協力で獣医学部が創設された。北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターがザンビア大学獣医学部内にザンビア拠点を設置している。2014 年に西アフリカで発生したアウトブレイク時には、ザンビア大学獣医学部の研究施設がエボラウィルスの検査機関として指定されており、高い評価を得ている。

授業は JICA ボランティアの河田先生が担当。工学部など様々な学部の生徒が集まる。最近孔子学院の教室を借用できるようになった。

### 日本に留学生を！

北海道大学獣医学部とザンビア大学の関係を背景に 2012 年、北海道大学獣医学部のキャンパス内に北大オフィスが設立され、北大をはじめ日本の大学への留学支援事業を行っている。留学生を増やすべく、東京大学とインド、九州大学と北アフリカ、北大はザンビアとロシアなど、日本の大学が各国と関係を強める動きが見られる。



ザンビア大学内に設置された  
孔子学院で行われる日本語クラス

父の仕事の関係上(外交官)日本の中学高校に通い、日本語ペラペラの学生も。彼女が言うには日本の学校の方がよかった!?

## 7. ザンビアの光と影

### 拡大する格差

2000年代に入り、年6%前後の経済成長率を維持したザンビア。ここ20年で首都ルサカの風景は様変わり。都市部の平均所得は10倍にも跳ね上がり、裕福になった人々の旺盛な消費がザンビアの経済成長を支えている。

しかし、一方では経済成長の恩恵をほとんど受けない人々もいる。貧困率は54.4%（2015年 JICA）とサブサハラ・アフリカ諸国のなかでも圧倒的に高い。特に、地方部の貧困率の高さは深刻である。そして、急増する対外債務（特に中国）が今後重くのしかかってくることが予想されている。

National poverty incidence 54.4%

Rural poverty 76.6%

Urban poverty 23.4%

2015 JICA

### 孤児院の子どもたちとストリートチルドレン

急速な発展と都市化の背後にはストリートチルドレンの存在もある。保護されたストリートチルドレンやエイズで両親を亡くすなど、様々な理由で孤児となった子どもたちが生活するシェルター、ルサカで生活するストリートチルドレンを訪問した。日本出身の桜子ムタレさんが



シェルターで暮らす子どもたち

ザンビア人で牧師をされているご主人とともにシェルターの運営、ストリートチルドレンの支援に携わっている。

学校で先生方からいただいた古着をシェルターに無事届けることができた。子どもたちの多くは裸足で、本当に着るものがないという様子がよく分かった。7~20歳くらいの男子が60名ほど生活するシェルター。5~6歳でひどいDVを受ける母を助けようと父を刃物で刺し、保護されたという男の子も。

しかし、子どもたちの多くは表情が明るく、元気がいい。「数学が好き」「将来は銀行で働きたい」自分の夢を語るができる。コンゴ民主共和国など政情不安な隣国から流れてきた子どもたちなど、そのバックグラウンドも様々、常駐のカウンセラーもいてケアに当たっているということであるが、愛にあふれた支援の賜物であるように感じた。



古着を届けました

MISHA と浅田美代子が番組の取材のため、この前後にシェルターやストリートチルドレンを訪問したようだ。

## 世界の現実

ストリートチルドレンとは、単に路上で生活する子どもたちのことだと思っていた。ルサカで宿泊していたホテルのすぐ近くに彼らの生活の場があり、私服の警察官 2 名同行のもと、その場を訪れた。ゴミだらけでひどい異臭がした。彼らは生まれてからシャワーを浴びたことがないかのように汚れていて、握手した手は砂でザラザラしていた。目つきがおかしい。彼らは空腹をごまかすためにシンナーを吸っていた。シンナーは食料よりずっと安く手に入る。シェルターに保護された子どもたちのなかにもシンナーが忘れられず、ここに戻ってきてしまうケースがあるという。「両親が死んでしまったが、学校に行きたい。助けてほしい」そのように話しかけてくる男の子がいた。女の子の姿も。彼女たちの置かれた状況はさらに深刻である。売春やレイプ、ストリートチルドレン間の場合もあるが、10代前半で妊娠出産し、赤ちゃんを抱えて路上で生活するケースも少なくないという。まだ 13~14 歳のようだが、廃人のような女の子の姿が目には焼き付いている。

## 8. ザンビアあれこれ

### 長野オリンピック！

ザンビアの自動車でもっと多いのがトヨタ。幼稚園や旅館のバスなど、日本の中古車をよく見かけた。

### おばあちゃんと一緒に



### おばちゃんたち



合計特殊出生率 4.98 人 (2016 年) の一方で、ルサカなどでは 1~2 人の家庭も増えている。

スカートに見えるのが民族衣装のチテンゲ

### 脱プラスチック



都会の女性たちはウィッグでファッションを楽しむ。ウィッグなので毎日ヘアスタイルが違う人も。都会でチテンゲを着る人はほとんど見られない。おしゃれな人が多い。リリアンさんは月 1 でネイルサロンへ行く。

ルサカのモールなどで買い物すると袋は 1~2K (約 10~20 円) で購入する。一方、ゴミのポイ捨て多発、現在ゴミ処理場は稼働していない…

### JICA ザンビア広報 リリアンさん



### 【情報提供】

- ・JICA 市民協力第一課 課長 高田 宏仁さん
- ・JICA ザンビア 所長 花井 淳一さん
- ・JICA ザンビア 企画調査員 新聞 郁子さん 安川 直人さん
- ・JICA ザンビア プロジェクト専門家 中井 一芳さん (教育)
- ・JICA ボランティア 横山 敬子さん (リビングストン観光協会)
- 原 隆さん (マテロー次レベル病院)
- 別府 真衣さん (シマトックヘルスセンター)
- 孔 晋一朗さん (ムババラ地域ヘルスセンター)
- ・北海道大学ザンビアオフィス
- ・桜子ムタレさん